

令和7年度 九州歯科大学 模擬講義一覧

	講義内容	講師
1	「歯周病は全身に影響する?? 歯医者的重要性!!」	^{むらおか こうすけ} 村岡 宏祐 (歯学科 クリニカルケア・グループ 開発学分野)
	歯周病が全身に影響するとテレビのCMで流れています。本当かどうかをお話しします。まずは歯医者はむし歯や入れ歯だけではなく様々な治療を知ってください。	
2	「美・健康を意識した歯科医療の提供を目指して」	^{わしお あやこ} 鷲尾 絢子 (歯学科 口腔保存治療学分野)
	歯科医療は、歯科疾患(虫歯, 歯周病など)や失われた歯に対して、感染・炎症(痛みなど)の除去と機能回復(噛めるようにすること)に努めており、その治療の成功率を上げるために、多くの材料・機器類の開発が行われています。さらに、歯の再生治療の実現へ向けた研究も行われており、将来、新たな治療法の選択肢が増えるかもしれません。その一方で、学校保健調査では虫歯の有病率は年々減少しているという喜ばしい報告がされています。そこで、歯科疾患を有しない綺麗な天然歯を保存し続けるために、これからの歯科医師・歯科衛生士はどのような歯科医療を提供しなければいけないのでしょうか?その答えは「美・健康」の意識を高めることなのかもしれません。講義を通して、みなさんと一緒に将来の魅力ある歯科医療について考える時間になればと思います。	
3	「10代にも忍び寄る歯周病～あなたのお口は大丈夫?」	^{うすい なるひこ} 白井 通彦 (歯学科 歯周病学分野)
	歯周病になると、歯肉が赤く腫れたり、口臭がきつくなります。そのまま放置していると、歯が抜けてしまい、食べ物を十分に食べることができなくなってしまう怖い病気です。年齢の高い人の病気というイメージがあるかもしれませんが、実は若い人でも歯周病にかかってしまうのです。歯周病の予防と治療、また、最近わかってきた全身の病気との関係について、わかりやすく説明いたします。	
4	「第3の歯? インプラント治療の最前線」	^{まさき ちひろ} 正木 千尋 (歯学科 口腔再建補綴学分野)
	最近、テレビや雑誌などで取り上げられることの多い「インプラント治療」とはどのような治療なのかを分かりやすく説明します。さらに、九州歯科大学附属病院で行っている最新のインプラント治療についてもお話ししたいと思います。	
5	「唾液のひみつ」	^{こんどう ゆうすけ} 近藤 祐介 (歯学科 口腔再建補綴学分野)
	お口の中の唾液について、多くの人はあまり深く考えたことがないと思います。ですが、唾液は体にとってたくさんの大事な仕事をしています。さらに唾液を作るためには様々な細胞が関わっています。この講義では、唾液についてわかりやすく説明したいと思っています。	
6	「失った歯や歯肉に代わるものは何か? 歯科材料・技術は進化している!」	^{ながまつ ゆき} 永松 有紀 (歯学科 生体材料学分野)
	歯や歯肉、さらには歯根を覆っている骨を失った場合、どのような方法で機能や見た目を取り戻すのでしょうか?一部で再生医療も取り入れられていますが、ほとんどの場合、歯科材料で補填をしてこれらを取り戻しています。再生医療のさらなる研究とともに、歯科材料の改良・新規歯科材料の開発も進めていく必要があります。現在、歯科医院・歯科技工所で大活躍中の材料から最先端の歯科材料・デジタル技術までご紹介します。	

令和7年度 九州歯科大学 模擬講義一覧

	講義内容	講師
7	「細胞がつくる人体の構造」	^{また ゆうじ} 瀬田 祐司 (歯学科 解剖学分野)
	人体は様々な細胞が集まって構成されています。いかに人体が精巧に作られているのかを、顕微鏡で見た臓器について解説します。	
8	「お口の中のできものの細胞をみてみよう」	^{やだ なおみ} 矢田 直美 (歯学科 口腔病態病理学分野)
	私たちの口の中は重層扁平上皮という粘膜上皮で覆われています。口腔がんなどできものはこの上皮から変化をしていきます。歯間ブラシでこすると口の中の細胞を見ることができます。また、こすった細胞から遺伝子を調べることも可能です。口の中の細胞と病気についてわかりやすく説明します。	
9	「歯科領域で繰り上げられるコラボレーション研究」	^{ありよし わたる} 有吉 渉 (歯学科 感染分子生物学分野)
	生命科学の研究は、常にアップデートされているため、多くの専門領域の研究者が協力して新しい発見や技術を生み出すことが欠かせません。それぞれの得意分野を活かして、一人ではできない研究が実現できます。例えば、人工心臓などの医療機器の開発では、医師と工学研究者の連携が求められます。九州歯科大学でも、むし歯や歯周病をはじめ、さまざまな歯科疾患の原因解明や、新しい診断方法や治療法の開発のために、他の大学や企業と協力した研究を進めています。ここではその一部をわかりやすく説明します。	
10	「口臭から全身の健康がわかるって本当？」	^{あんさい としひろ} 安細 敏弘 (歯学科 地域健康開発歯学分野)
	口臭の関心は高校生の間でも高いにもかかわらず、原因や病態についてあまり知られていないのが現状です。そこで口臭の原因・検査法・治療の流れについてわかりやすく話すとともに侵襲性の少ない唾液やにおいなどの検体を用いた診断法についてもお話する予定です。	
11	「知ってもらいたい、子ども達の歯と口のこと」	^{もりかわ かずまき} 森川 和政 (歯学科 口腔機能発達学分野)
	『The child is not a little man.』(子どもは小さな大人ではない)、小児歯科では良く用いられる表現です。この講義では、歯の発育と乳幼児期から学童期にみられる歯科疾患(虫歯、虫歯予防、歯並び、歯のケガ、発音、歯の数など)についてお話ししたいと思います。	
12	「歯並びについて知ろう -いつ始めるの、どう直すの-」	^{かわもと たつお} 川元 龍夫 (歯学科 顎口腔機能矯正学分野)
	ひとことで歯並びが悪いといっても、様々な種類の不正咬合に分類されます。歯並びについての理解を深めるとともに不正咬合によってもたらされる問題点をわかりやすく解説します。さらに、いつ矯正治療を始めるのか？どうやって治療してゆくの？を九州歯科大学附属病院で行われている最新の矯正治療にそくしてお話ししたいと思います。	

令和7年度 九州歯科大学 模擬講義一覧

	講義内容	講師
13	「自然と歯が生えるのは当たり前、と思いませんか？」	<small>ぐんじがけ かおり</small> 郡司掛 香織 歯学科 顎口腔機能矯正学分野
	子どもは成長するにつれて乳歯が生えて、永久歯に生え替わります。多くの高校生は既に永久歯が全て生えそろうているはずですが、稀に自然には生えてこられず、乳歯が残ったままだったり、乳歯は抜けたけれど永久歯が生えずに歯がないままになっている方もおられるかもしれません。この講義ではこのようなことが起こる理由や対処法を実際の治療の写真も交えてお話ししたいと思います。	
14	「その癖大丈夫？－歯並びのお話－」	<small>くろいし かよこ</small> 黒石 加代子 歯学科 顎口腔機能矯正学分野
	歯並びに影響を与える要因に、指しゃぶりや、舌を出す癖があるのは知っていますか？ 歯の位置は、唇や舌などの外力の安定する場所に並びます。この講義では、口に関連する癖と歯並びの関係について、実際の写真もお見せしながらわかりやすくお伝えいたします。	
15	「『歯科領域における放射線の利用と被ばく』と『九州歯科大学と歯科学の紹介』」	<small>もりもと やすひろ</small> 森本 泰宏 歯学科 歯科放射線学分野
	歯科領域における放射線の利用と被ばくでは、医学の中で進歩が著しい放射線学の分野が医療にどのように応用されているのか、どの程度被ばくが生じ、人体に影響するのか等を説明します。九州歯科大学と歯科学の紹介では、九州歯科大学の紹介と本学を通して歯科学で学ぶこと及び卒業後どのような仕事を行っているのかを説明します。	
16	「放射線とは何か」	<small>おだ まさみ</small> 小田 昌史 歯学科 歯科放射線学分野
	放射線は一般に体に害をなすものという印象が強いです。その考えは正しい一方で、放射線が医療の世界で多用されていることも事実です。そこで、そもそも放射線とは何か、なぜ悪影響があるのか、また、なぜ有害なのに医療で役に立つのかについて説明したいと思います。	
17	「未来の健康を支える仕事～歯科が守るのは、命そのもの～」	<small>はぶ まなぶ</small> 土生 学 歯学科 顎顔面外科学分野
	「歯医者さん＝虫歯治療」というイメージ、そろそろアップデートしませんか？ 実は“歯科”の世界には、全身の健康に深く関わる「口腔外科(こうくうげか)」という分野があります。口腔がんの早期発見、外傷(交通事故やスポーツでのあごの骨折)、顎関節症、そして命に関わる感染症の治療まで――。口の中だけでなく、“命を守る”仕事をするのが、口腔外科です。この授業では、歯科医師の中でも特に医科と連携しながら命と向き合う「口腔外科医」の仕事を紹介しつつ、歯科がなぜ「医療の最前線」にあるのかをわかりやすくお話しします。手術？がん？救急？といった、「こんなことも歯科が？」と思うようなリアルな現場の一端を、あなたに。“命を守るプロフェッショナル”を目指すきっかけにしませんか？	

令和7年度 九州歯科大学 模擬講義一覧

	講義内容	講師
18	「虹が綺麗に見えることとむし歯の関係 -ヒトの食性から見る齲蝕リスク-」	<p>あきふさ すみお 秋房 住郎</p> <p>〔 口腔保健学科 多職種連携推進ユニット 〕</p>
	<p>むし歯の原因は糖を発酵する細菌がヒトの口腔内に感染して、食事を通じて摂取した糖が発酵されてできた酸が歯を脱灰し、この脱灰が不可逆的に進行することにより起きます。なぜヒトは糖を摂取するのか、ヒトの食に関する進化からむし歯のリスクを捉えて、歯科保健指導のあり方を考えます。</p>	
19	「あなたの食生活、それで大丈夫ですか？ ~口と身体の機能を健康に保つために~」	<p>つじさわ としゆき 辻澤 利行</p> <p>〔 口腔保健学科 多職種連携推進ユニット 〕</p>
	<p>高校生は、身体の発達や活動量が増加することから生涯を通して最も多くの栄養素を必要とする時期です。しかしながら、やせ願望、欠食・コ食・間食や夜食のとり方、生活リズムが不規則など様々な問題点が指摘されています。口と身体の健康を保つために一度あなたの食生活を見直してみませんか。</p>	
20	「脳の不思議」	<p>よしの けんいち 吉野 賢一</p> <p>〔 共通基盤教育部門 〕</p>
	<p>どこで「見る」という問に対して、多くの人は「目」と答えますが、本当でしょうか。脳科学的には「目で見ると」は間違いです。なぜなら、目を使わなくても「見る」でしよ、夢を。実は私たちは脳で見ているのです。講義では錯視や多義図形(かくし絵)などを使いながら、「脳で見ると」を実感してもらいます。脳科学的には「歯が痛い」も間違いで「脳が痛い」、「口で食べる」も間違いで「脳で食べる」なのですよ。面白いでしょ。</p>	